東京女子大学・東寮および旧体育館の建物保存要望書

平成18年8月18日

杉並区長　山田　宏　様

杉並たてもの応援団
代表　田村公一

私ども「杉並たてもの応援団」は、街づくりの大切な要素である区内の歴史的建造物を保存活用するための活動を行なっている市民グループです。

既に新聞の記事（※1）等でご承知のことと思いますが、東京女子大学が現在進めている「キャンパス整備計画」において、同大学が杉並に移転した直後に建てた東寮（1923年竣工）および旧体育館（1924年竣工）を解体し、新たな教育施設を建てる計画があります。東寮に関しては、来年早々にも解体が始まると聞いております。

東寮と旧体育館の設計者は、チェコ出身の米国人建築家アントニン・レーモンド。女子大の常任理事・A．K．ライシャワーは、帝国ホテル建設のためF．L．ライトと共に来日したレーモンドを大学施設の設計者に起用し、マスタープランを依頼しました。

ふたりで検分したという善福寺の土地は、当時、赤松だらけの荒地でしたが、東西南北に広がる寄宿寮を中心に、教室棟・教師館・体育館・図書館・チャペルがバランスよく配された見事なマスタープランが誕生しました（※2）。実施された東西の寄宿寮のうち、残念ながら西寮は1984年に取り壊されましたが、その他の建物は、現在までほぼ初期プラン通りに残されていて、それらを維持されてきた女子大側の姿勢は、建築史的に見ても高く評価すべきことと思います。

東寮建物の建築史的評価については、東京工業大学教授・藤岡洋保氏の文章（※3）に詳しくありますので、ご参照願います。旧体育館についても、同様にファサードは師事したライトの影響が色濃く見られ、細部はチェコキュビズムを取り入れたレーモンド独特のモダンなスタイルでまとめられています（※4）。

これらの歴史的建造物を失うことは、女子大の生徒や関係者のみならず、杉並区にとっても大きな損失であると考えられます。また、昨今、立教大学や学習院大学のように、歴史のある建物を上手く活用することで人気を博している大学も増えてきています。東京女子大においても、東寮および旧体育館を利活用して保存することが区民の財産であり、建学の精神を貫く大学は、文化の街・杉並の誇りでもあります。

杉並区におきましては、日頃から歴史的建造物の保存に理解を示しておられることと存じますが、ぜひ、「東京女子大学・東寮および旧体育館」の建物が保存活用されるよう、何卒ご支援賜りたくお願い申し上げます。

連絡先：■■■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■■■
杉並たてもの応援団　田村公一